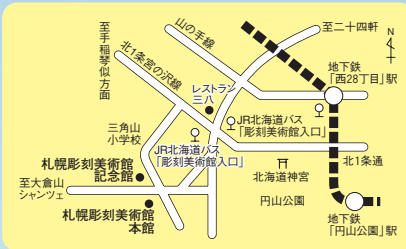




札幌彫刻美術館

本郷の作品のほか、制作道具や日用品などを収蔵・展示し、特別展も開催している。
宮の森 4-12 ☎642-5709
料 金：一般300円、高校・大学生200円
(中学生以下無料)

休館日：月曜（祝日の場合翌日）、年末年始
交 通：地下鉄西28丁目駅からJR北海道バス「山の手環状線(神宮先回り)」で「彫刻美術館入口」下車、徒歩10分



雪華の像(昭和46年/真駒内公園)



わだつみのこえ(昭和25年/札幌彫刻美術館)



無辜の民「デルタ」(昭和45年/札幌彫刻美術館所蔵)



泉の像(昭和34年/大通公園)

大きな記念像から小品まで、多彩な創作活動を繰り広げた本郷。その根底には、牧歌的な自然に囲まれ、キリスト教を信仰する両親の

札幌駅前にも、「牧歌」、真駒内公園の「雪華の像」などの作品が残されている。

晩年、本郷は宮の森にアトリエを構えた。昭和五十二年のことである。故郷での創作活動に余生を費やしたいと考えたのかもしれない。しかし、そのアトリエで一度も作品を作ることなく、三年後に世を去る。七十四歳であ

戦後、社会情勢が大きく変わると、すでに彫刻界の指導者的存在となっていた本郷の念願は、ようやく現実のものとなっていく。北は稚内から南は鹿児島まで各地に五十点近くの記念像を制作したのだ。中でも、立命館大学の構内に建てられた戦没学生記念像「わだつみのこえ」は彼の金字塔となった。札幌にも、泉の像のほか、札幌駅前にも、「牧歌」、真駒内公園の「雪華の像」などの作品が残されている。

下で過ごした幼少期に得た、自由な感情と人間性の尊厳を重んじる姿勢があるという。昭和四十五年、本郷は「無辜の民」と呼ばれる連作を完成させる。「デルタ」、「砂漠の女」といった副題のつく十五点のシリーズで、中東紛争で悲惨な状態に追い込まれた、何の罪もない民衆の姿を表現したものだ。正義感と虐げられた人々に対する優しさが込められたこの作品からは、人間の喜びや悲しみを真摯にとらえ続けた本郷のまなざしが垣間見える。

昭和五十六年、札幌彫刻美術館が開館し、アトリエも本郷の記念館として残されることになった。三輪望館長は語る。「近隣の小中学校と連携し、授業で美術館を利用してもらっています。子どもたちが立体表現の素晴らしさに触れる機会ができ、うれしく思います」。こうして、生涯をかけて彫刻の美を追い求めた本郷の情熱は、彼の作品とともに未来へ受け継がれていくのだろう。

戦後、社会情勢が大きく変わると、すでに彫刻界の指導者的存在となっていた本郷の念願は、ようやく現実のものとなっていく。北は稚内から南は鹿児島まで各地に五十点近くの記念像を制作したのだ。中でも、立命館大学の構内に建てられた戦没学生記念像「わだつみのこえ」は彼の金字塔となった。札幌にも、泉の像のほか、札幌駅前にも、「牧歌」、真駒内公園の「雪華の像」などの作品が残されている。

戦後、社会情勢が大きく変わると、すでに彫刻界の指導者的存在となっていた本郷の念願は、ようやく現実のものとなっていく。

死の直前、本郷は宮の森の土地、アトリエ、作品を道と市に寄贈した。そこに美術館を建ててほしいという。このころ、彫刻専門の美術館は全国でもわずかだった。若い世代に発表の場を与えたい。それが本郷の遺志だった。

昭和五十六年、札幌彫刻美術館が開館し、アトリエも本郷の記念館として残されることになった。三輪望館長は語る。「近隣の小中学校と連携し、授業で美術館を利用してもらっています。子どもたちが立体表現の素晴らしさに触れる機会ができ、うれしく思います」。こうして、生涯をかけて彫刻の美を追い求めた本郷の情熱は、彼の作品とともに未来へ受け継がれていくのだろう。



世田谷のアトリエにて(昭和49年)

参考文献…彫刻の美(再々刊・中央公論美術出版) 本郷新一彫刻集(求龍堂) 本郷新記念札幌彫刻美術館(ニュー・スカルプチュア・センター) 20世紀・日本彫刻物語(札幌市芸術文化財団)